

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念により、入居者の尊厳を大切に笑顔の日々を忘れずを掲げています。近場に公園があり、1対1で散歩を毎日実施しており、悩みの相談や、何か食べたい物をお聞きし、必ずフロアリーダーから施設長に上げ、レクリエーションにて行う。(距離のある外出は控えている) 新型コロナウイルスの渦の中でも、家族様に面会をしてほしい事から、月2回予約制・相談室にて1時間程面会をしていただく。家族様の要望でもあり、施設長の私用の携帯だが、LINE電話やメールでダイレクトに連絡を取っている。これを行う事により、生の声が聞こえる為、改善点や躍進に繋がる。言葉より行動を取る施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は2000年に設立され、大阪府下でグループホーム3つとケアハウス・デイサービスセンターを運営しており、当事業所は2014年に開設された2階建て2ユニットのグループホームである。コロナ禍で家族との面会や外出を自粛している事業所が多い中で、当事業所は、回数・人数制限はあるが特に時間制限はせずに面会してもらい、また1:1で近くの公園までほぼ毎日散歩に出掛けている。個別外出や遠出がままならない中、利用者の希望に応じて回転焼き・豚まん・寿司などを買って提供したり、バーベキューや餅つきも行い、また色々な室内レクリエーションをして閉塞感を無くし、その様子の写真を家族に送って大変喜ばれている。管理者は私用の携帯電話でのLINE・電話・メールで、利用者の状況や変化について家族にきめ細かく連絡し、安心と信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、管理者が元、その考え方を職員に周知させ理解させている。	事業所理念「入居者の尊厳を大切に笑顔の日々を忘れず」を各フロアの目に付く所とインターフォン近くに掲示している。職員が認識しているかどうかは、管理者が全体会議でランダムに確認している。利用者の意向を尊重し、なるべく自己決定してもらうよう働き掛け、また常に笑顔で接するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナやインフルエンザが、蔓延の中、地域とは言えないが、施設の周辺の住宅の方たちとは関係性を絶やさず交流を守っている。町会が機能しておらず、本年度も町会費の徴収もない。	町会には加入しており、町会長は当事業所の地主であるが、近隣は6軒中4軒が空き家になるなど、町会活動が停滞しており、町会の行事はほとんどない。事業所では近隣の住民から介護問題等で相談があれば対応する等地域への協力姿勢は欠かさないように留意している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昔ながら地域に住まいの方々が居なくなり、施設の孤立感が強くなっており、活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様の面会とともに、行っており、意見交換を行っている。	昨年度から対面会議を再開し、交代で参加する家族の都合の良い日を設定し、利用者・家族・地主・近隣住民の参加を得ている。会議では入居状況・行事・研修・委員会活動を報告し、意見交換をしている。議事録は約半数の家族に送付し、玄関でも開示している。意見に沿って防犯カメラを屋外向けに1台と各フロアに1台ずつ設置した。	今後は、運営推進会議の必須メンバーである行政職員または地域包括支援センター職員の参加を要請すること、活動報告書に事故・ヒヤリハットなども記載し充実することを望む。また外部評価結果も会議内で開示し、玄関にも置いて開示することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とあまり関わりが無く、書類上の事しか連絡が出来ていない状況。	市の高齢介護課や福祉総務課とは介護保険や生活保護受給者関連などで、社会福祉協議会とはコロナ・インフルエンザ感染症関連などで連携し、市の介護保険研修などに参加している。管理者は市のグループホーム連絡会の長を務め、3か月に1回会を開いて意見交換を行い、空き室状況も共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、全職員に周知し、過去から現在に至り、拘束0を行っている。	「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、3か月に1回の委員会と年2回の研修を実施している。玄関と各フロア出入口は安全上施錠しているが、利用者はほぼ毎日散歩しているので閉塞感はない。研修でスピーチロックを取り上げ、「ちょっと待って」は「〇〇さん、話があるので待っててください」に言い換えるなど留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、全職員に周知し、家族からも綿密に連絡を取り合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の制度は、年1回研修で設けたり、職員に休憩中に観覧出来る様にし、契約時に家族様にも説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や見学時に、施設へのメリットとデメリットを十分説明し(契約時にも同じ事を繰り返しており)、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ユニットの強みを活かし、日々管理者や職員が入居者さんや家族様から意見交換しており、運営に反映されています。	家族等の面会は、コロナ禍でも、月2回予約制で相談室にて特に時間制限無く実施している。家族の要望に沿って人数制限を2名から3名に拡大し、食べ物の持ち込みも可能にした。管理者は自前の携帯電話で細目に家族に連絡するので、利用者個別の便りは作らず、個々の写真3～5枚とレクレーションカレンダーを送付し、家族から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営ならび職員の意見は、管理者と職員間で、話しにくい事は、LINEメールや電話でやり取りして、反映している。	管理者は日常的に職員の意見・提案を聞くよう努め、また全体会議・フロア会議を各々月1回開いて聞いている。意見に沿って今まで休憩室を作ったり更衣室ロッカーを整備し、新たに休憩室にソファを設置してゆっくり休めるようにした。身体拘束・虐待・感染症・災害の各委員を設け、職員は分担して運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場経験に熟知しているので、現場職員の気持ちが分かり、環境を整える事により、入居者さんに大きく反映されると考えて、実行に移せる範囲は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて、新人研修や定時の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、グループホーム連絡会があり、同業者と意見交換を交わし、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本氏と職員の関係性は初期段階で必ず築く様に努めているが、入居者さん同士が、先に関係性を築く事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と密に連絡が取れる様に、電話やメールにて工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設のサービス内容も説明するが、他の介護業種の説明や、他のサービス導入も同じく行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援している・支援されている概念を捨て、共同生活で、「1つ屋根の下」として、入居者同士は理解を得て、関係性が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少ない面会の中ですが、十分に築けており、会社の電話から家族に電話する事もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナで、「外出」や対人は難しい為、車にて住まれていた周辺へドライブする時がある。	入居前の居宅介護者や利用者・家族から利用者の生活歴や馴染みの関係を聞いてフェイスシートに記入し、職員間で共有している。大阪府外に居住する関係者が多いため、訪問する人はほとんど無く、電話や手紙も途切れている。3か月に1回程、5名ずつ交代でドライブに出掛け、利用者が以前住んでいた近くを通ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士、仲が良く、現在トラブルは無いが、あった場合は、家族や職員と話し合い、フローア異動する場合がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、管理者が相談に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見と意向を大切にし、困難な場合のみ、互いに妥協点を職員と本氏で考え、実践している。	入居時に利用者・家族から把握した希望・意向はフェイスシートに記入し、入居後は申し送りノートや会議に於いて職員間で共有している。自立度が高く意向を表出できる利用者が多いが、表出しにくい人は二者択一を示したりして把握している。食べ物の希望が多く、回転焼・豚まん・寿司などを買い、年2回バーベキューを行い、3月には餅つきもする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏と家族様から情報収集し、レクリエーション等に入れ込み、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る面、出来ない面を分析しながら、1人1人に役割をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本氏、介護支援専門員、管理者、職員、家族からアセスメントとモニタリングを繰り返すだけでなく、電話やメールにて発見に努めている。	アセスメント・モニタリング・支援経過記録などを基に、利用者・家族の意見も取り入れて、長期目標1年・短期目標半年の介護計画を作成している。計画は3か月毎にモニタリングし、フロア会議でカンファレンスし、サービス担当者会議(本人・家族・ケアマネジャー・職員が参加)を開いて半年毎に見直している。	介護計画には、利用者・家族や関係者の意見・要望を反映することが重要である。今後は、計画作成前の家族からの意見・要望の収集と、作成後の説明・話し合いを十分行うことを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の力により、職員の記録や意見を根拠に実践や介護計画が活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を臨機応変に対応し、結果に繋がる様に、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナと住民の活気が無く、取り組んでいるが、空き地が多くなり、なるべく周辺から固めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要性が生じた場合、ダイレクトにドクターや看護師に連絡を取り合い、ドクターから家族へ連絡を行う。本氏の意見を汲み取りながら。	利用者の納得と同意を得て、全員が協力医療機関(病院・クリニック)をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科は週1回の訪問診療を受けている。その他の診療は、家族または職員が同行している。職員同行の場合は、医療機関から直接家族等へ診療結果が連絡される。医療連携による訪問看護師が週1回来所し、利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、最低週1回以上は施設へ訪問看護師が来られ、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関によって異なりますが、本氏に合った状態で、早期退院を各地域連携室には、ご相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、看取りは行っておらず、契約時に本氏にあったサービス案内やサポートの説明を十分に行っている。	入所契約時に、事業所が看取りを行わないことを重要事項説明書に沿って本人・家族等に十分説明し同意を得ている。重度化した場合には、医師が家族などに利用者の状態を説明し入院手続きに入る。なお、法人のグループホーム3か所の内、1か所を除き看取りを行っていない。これまで事業所で急死したケースはあったが、看取りは無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は、常にフロアのキッチンに貼り出しており、全体会議で周知もさせている。必ず病院へは、管理者も出来る限り駆けつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では不安な為、ADL向上に繋がる為、レクリエーションの散歩と題して、訓練する場合がある。	最大懸念は台風などに伴う停電で、かつて1週間停電した苦い経験がある(2018年 台風21号)。従い、年2回の消防訓練に加え、利用者の歩行とADL向上を兼ねたミニ避難訓練もある。備蓄は、水・飲料・米飯など3日分のほか、ガスコンロなども追加した。非常時には近隣在住の職員10名が駆けつける体制にある。BCP(事業継続計画)は策定済である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、自由に過ごしていただいております。常にコミュニケーションを図る場面等、職員も対応している。	デイサービスのレクリエーションなどで鍛えた管理者と、人柄重視の採用職員による笑いが絶えない事業所で、利用者は自由に楽しく和やかに過ごしている。「プライバシーの確保・接遇マニュアル」を整備し、居室・トイレ・浴室の扉は閉めて外の目から遮断し、呼び掛けなどの言葉遣いに留意している。不都合な対応には、主任が職員に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏が出来る事は、本氏で行っていただくのが、施設の考えの1つで、選ぶ事も自由に決定して、必要性がある場合のみ、職員と一緒に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、その時の気分に沿って合わせていく事が大切だと感じて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設側から家族様へお願いし、今のデザインで洋服の購入を依頼している。家族が購入が困難な場合、管理者が代行で購入に行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の料理で飽きがある為、昼食レクで寿司やバーベキューを取り入れたりしている。その際に、役割分担をお願いしています。	給食業者の献立で、2日おきに搬入される調理済み食品を職員が台所で湯煎し、一部を一口大・きざみ・ミキサー食などに調理し、白飯と汁物を添えて提供している。昼食には、利用者の要望を取入れた自家製天ぷら・そば、テイクアウトの回転寿司・ぜんざいやもち類を提供し喜ばれている。利用者は、食前のテーブル消毒などに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度、栄養士が訪問し、指導を行っている。(現在、新型コロナで資料配布のみ) 食品会社からも月に1度、アンケートや話し合いがある為、入居者さんの意見に反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	先に本氏の力にて行い、本氏から職員にて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは記録に残しており、全職員が周知し管理をしている。トイレ迄に間に合わない方等は、本氏に確認を取りながら、居室にポータブルトイレを設置したり工夫を考えている。	日中は、車椅子利用のおむつ常用者1名を除き、ほぼ全員がリハビリパンツで過ごし、自分でトイレへ向かうことができる。職員は排泄パターンを参考にし、利用者が自分でできることには可能な限り見守りに徹している。夜間は、パッド併用やポータブルトイレ使用のほか、夜勤職員がトイレへ誘導するなど、一人ひとりに合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては、一口大、きざみ、ミキサー、トロミ粉迄、対応を行っている。 水分量も1日の目安を決めており、飲料なども工夫(アクエリアス・コーヒー・紅茶)している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせた入浴剤を購入。 入浴時間や日は基本は決めているが、気分によらない場合、違う日程にしたり、工夫をしている。	週2回午前中に、利用者の気分に合わせて入浴することが多い。各フロアに一般浴槽があり、職員は1:1で対応し、利用者が入浴を楽しめるよう2人の会話が弾むよう心掛けている。浴槽を跨げない利用者(2名)には、シャワー浴と足浴を併用している。季節湯や季節に合った入浴剤を使用することで、利用者が気持ち良く入浴できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、照明の調整や環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	紛失や誤薬を防ぐ為、職員が一人一人確認をしながら、口の中迄、支援を行っており、薬の管理は施設側で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	潜在している記憶や、出来る力を活かせる様に、本氏の意見を実行に反映させながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様へ、外泊や外食を積極的に施設側から、お願いをしており、近隣にはレクで散歩を行っている。	コロナ禍にあっても散歩や面会を継続していた稀有な事業所であり、コロナ禍が落ち着いた現在もこの良き習慣を継続・拡大している。特に家族同行による美容院通い・買い物や外食を伴う外出などにも積極的に声掛けし、事業所として支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本氏自身の金銭管理や施設側では、禁止にしているが、施設側が立て替えて、一緒に買い物に行き、お支払いとお釣りが出てくる迄は、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本氏や家族様へは、電話は午前9時～午後18時迄は、可にしているの、よく連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアに、なるべく物を置かず、落ち着く空間作りや、ライトの調整も行っている。	共用部のリビングダイニングは、明るくすっきりした開放的な空間で、ソファも置かれ、利用者が自由で落ち着いて過ごせる。壁には、必要掲示物のほか、利用者作品や花(造花)が飾られて利用者にも好評である。空調機に加え、窓を少し開けて換気に配慮し、夜間は淡いオレンジのLED照明が壁に映え、落ち着いた雰囲気となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、自由に過ごしていただいおり、職員がタイミングを見計らい、間を取りまとめる部分見受けられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本氏や家族からの希望に沿い、心地のよい空間作りを心掛けています。	居室には、予め設置された介護用ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台などに加え、利用者によってはテレビ(台)や小型収納・置物やぬいぐるみ・家族の写真などを持ち込み、自分の部屋を演出している。居室の清掃は、共用部も含め職員が行い、清潔さの保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節に沿った展示物や、入居者の作品をフロアで掲載している。		